

ハラールという戦略上の選択肢 حلال

データで読み解く訪日ムスリム客の動向

第 31 回

も、自国からそう遠くない地域に。

シンガポールで先日、「ハラールツーリズム・エグゼクティブ・プログラム」と題したセミナーが開催されました。これはハラールツーリズムの格付けおよびコンサルティング事業を展開しているクレセントレーティング社（シンガポール）が主催したもので、私は講師の 1 人として招かれました。4 日間の会期で共有されたのはハラールツーリズムの課題と対策で、日本にとっても示唆に富むものでした。

2つのミスアンダースタンディング

4 日間のプログラムは全 28 時間、10 のモジュールで構成され、11 人の講師が登壇しました。その顔ぶれは地政学者、ツーリズム学者、イスラム学者、旅行業者、建築家、ホテルオペレーター、インフルエンサー、インターネット上などで影響力を持つ個人、 marketer、リサーチャーなどさまざまで、セミナーというよりもシンポジウムの様相を呈していました。各国の事例紹介に加え、日本への期待と課題（特にラグジュアリー＝富裕層＝市場）が提起され、連日、熱のこもった議論が続きました。

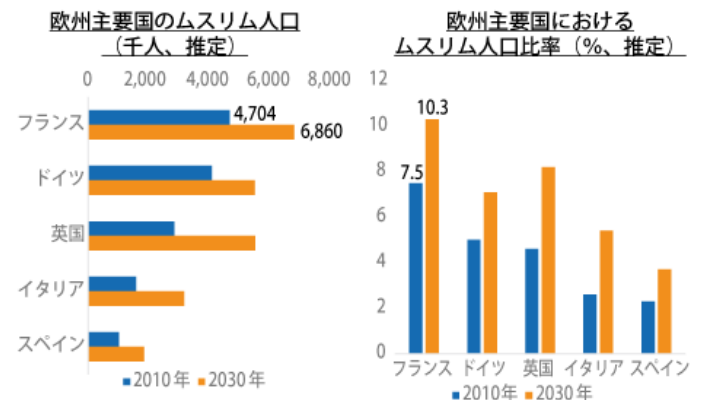
2017 年の世界のムスリム（イスラム教徒）旅行者数は 1 億 3,100 万人と、中国人旅行者の 1 億 2,800 万人を抜いたと推定されます。そのムスリム旅行者の 70% が 36 歳以下であり、彼らの旅行目的はレジャーが 80%、ビジネスとその他がそれぞれ 10%と、非ムスリム旅行者と大差ないことが示されました。彼らは Time Poor（時間的余裕がない）で、すぐにインターネットにアクセスし情報を検索できる環境を重視しており、自分たちのライフスタイルを「特別扱いしてほしくないが、軽視してほしくない」と考えているとの調査結果が示されました。

聴講者として参加した南アフリカ政府観光局の方は「われわれは Misunderstanding（誤解）の上に Missed Understanding（理解する機会を喪失）していた」とプログラムを振り返りました。同国は近年ハラールツーリズムに注力し成果を上げていますが、今回のプログラムで新たな顧客層を発見したということです。意外に

欧州でもムスリムは急増している

次のグラフは欧州主要国のムスリム人口とその比率を示しています。10 年に欧州全体で 4.5%だったムスリム人口の比率は、30 年には 7.1%に達すると推定されます。中でもアフリカからの移民が多いフランスでは、30 年にはムスリムが全人口の 10%超を占めると推定されています。10 年に 1,800 万人だった欧州全体のムスリム人口が仮に現在 2,000 万人になっているとすると、それは今のマレーシアのムスリム人口に匹敵することになります。

欧州のムスリム人口は2030年に3,000万人に達し、フランスにおいては国内人口の10%超となる見込みである



最近、こうした状況が垣間見える機会がありました。今年開催されたサッカー・ワールドカップ（W杯）ロシア大会です。優勝したフランス代表チーム 23 人の中に 7 人のムスリムが含まれていたことが話題となりました。彼らはアフリカ系移民ですが、移民問題で揺れる同国で一躍英雄になったのです。逆にトルコからの移民 3 世であるドイツ代表のエジル選手は、「勝てばドイツ国民、負ければトルコ国民扱いされるのは、もううんざりだ」と言って、代表引退を発表しました。いずれも欧州でのムスリム急増を物語っているものだと思います。

なお開幕戦はロシア対サウジアラビア戦でした。当日はラマダン（断食月）の最終日とあって、サウジ代表の中には断食を続けて試合に臨んだ選手がいたそう

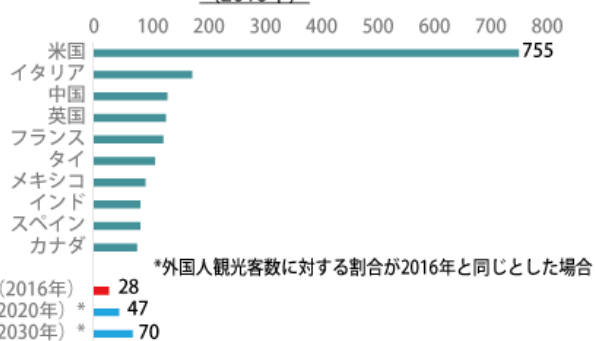
ですが、こうしたスポーツと宗教行事の関係を巡って各国は対応を迫られました。サウジは断食に関する特例を認めましたが、イランは認めませんでした。エジプトはムフティ（イスラム教の指導者）がわざわざ会期中の断食免除を発表。このほかチュニジアは練習試合の際、日没後にけがをしたふりをするよう監督がある選手に指示し、試合が中断している間、他の選手が飲食できるようにしたといいます。

課題はラグジュアリー市場

セミナーでは日本に対して、ラグジュアリー市場の育成が提起されました。中東と欧州では高価格帯のムスリムフレンドリーホテルが増加しており、ムスリムが多いサッカーのフランス代表チームも利用しているとのこと。中東でホテル事業を展開しているホテルオペレーターによると、オマーンにあるムスリムフレンドリーホテルは宿泊者の 60% が非ムスリムだそうで、必ずしもムスリム専用ではないというブランドイメージづくりに成功しているようです。

日本は 5 つ星ホテルの数が圧倒的に不足しており、ラグジュアリー市場において大きく出遅れている

5 つ星ホテルの数と上位 10 カ国
(2016 年)



資料: Five Star Alliance, UNWTO から作成

このグラフは、5 つ星ホテルの多い上位 10 カ国と日本でのその数を示しています。日本は 16 年時点で 5 つ星ホテルが 28 軒しかなく、上位 10 カ国に大きく水をあけられています。同年の訪日外国人客が 2,400 万人だったことを考えると、約 86 万人につき 1 軒という計算になります。訪日外国人客を 20 年に 4,000 万人、30

年に 6,000 万人に引き上げるという政府目標に照らせば、20 年に 47 軒、30 年に 70 軒の 5 つ星ホテルが必要ということになりますが、それでも圧倒的に少ないと言わざるを得ません。

これは、日本がツーリズム市場で高いポテンシャルを持っているにもかかわらず、グローバルレベルのラグジュアリーサービスを提供できていないことを示しています。考えられる理由としては、ほんの数年前まで日本人旅行者だけで十分需要があったホスピタリティー業界が、日本人が宿泊しない 5 つ星ホテルを開業する必要がなかったからではないでしょうか。

訪日外国人客は 17 年に 2,869 万人に増えましたが、先述の通り日本政府は 20 年に 4,000 万人、30 年には 6,000 万人に増やすことを目指しています。ハラール対応はあくまで打つべき手の一つとしても、観光立国を目指す日本にとって、5 つ星ホテルの整備は新たなビジネスの機会であるとともに、世界から求められている喫緊の課題なのです。

< 筆者紹介 >

横山真也

ヨコヤマ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役
フードダイバーシティ株式会社 共同創業者

ハラール、ヴィーガン、オリエンタルベジタリアン、グルテンフリーといった食の多様性対応～フードダイバーシティ～のプラットフォーマー。Halal Media Japan (ウェブ)、Halal Gourmet Japan (アプリ)、Halal Expo Japan (商談会)、Tokyo Modest Fashion Show (ファッションショー) といった複数ブランドの事業を展開している。MasterCard CrescentRating -Japan Muslim Travel Index 2017- では共同編集長、「開国のイノベーション～日出る国の三日月～」(アマゾン刊) では企画・編集を務めた。趣味は矢沢永吉。今年は東名阪のライブに参戦予定で、通算参戦数は 135 回に達する見込み。